

## 無邪気なグイアモンド

木所

薫

皆さんは「寝」と「訓練」の違いをどのように理解されておられるでしょうか？特に「訓練」と耳にすると物々しいものを想像されるようですし、「訓練競技会」などは目を見張るものがあります。私もこれらの区別は難しいと思います。あえて言うならば、「寝は人間と犬との共同生活に必要なマナーであり、快適な生活を得るための約束事」。訓練は「犬の能力を引き出し、より高め、何かの目的のために役立たせるためのもの」とでも申しましょうか。

たいていワンちゃんをお飼になると「お手」や「お座り」などを教えると思いますが、これこそ犬達が最初に出会う訓練でしょう。

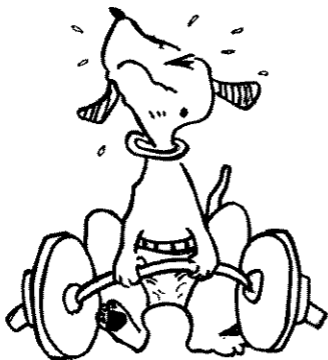
特に、ラブラトールほとどのサイズになると力も強く、せめて最小のマナーを守らないと、悲しいことながら他人に迷惑をかけ、手放すことにもなりかねません。

私はよく散歩の途中に「こんなに大きな犬だと、やはり訓練に出さなければいけないのかしら？」と聞かれます。その方は、多分「寝が難しい」と言う意味で尋ねられたのだと思います。そんな時私は大テングになり「個体差もありますが（と力を入れて）ラブラトールでしたら、十分御家庭で寝られますよ。」などと、かなりエコヒイキに答えてしまいます。

ラブラトールに寝をする場合、「叱る」ことに注意が必要のように思います。タイミングを外したり、年中叱ってばかりでは犬格を歪め兼ねません。叱る時は、素早く、できれば良くないことをしている最中に叱るのがよいと思います。（私がそうだったので）ただ大きな声を出したり、手ではたいたりしても、一時的な静止はできても持続性に欠けるようです。

ここで私の経験談を話します。私の愛犬ラムの生長期に、最初で最後だと思いますが、身の毛もよ立つほど叱り付けたこと

があり、彼女は死神に見撮えられた鳥のように目の色を変え、縮み上がって半伏しておりました。彼女のあまりに哀れな姿に、頃合を見て深くねぎらってあげたものでした。その頃私は彼女



のヤンチャぶりに少し苛立っており、日に日に大きくなる彼女と、上下関係をはっきりさせるため、故意にそうしたので。そして計画どおり、その後の馴や訓練は楽に入りました。今では、私にとって最愛のパートナーになっております。

今、六才になった彼女に、ほとんど強く叱ることはありません。いけないことをしたときは、私が叱る前に自分から「申し訳ない！」と頭と尾を下げ謝りに来ます。叱るときも、頭をボンボンと軽く叩く程度でしょう。彼女は（室内で共に生活しているせいか）実によく生活パターンを飲み込んでいます。人間に自分を合わせようとする天性を、彼女らラブラドルは持っているのではないのでしょうか？

そんな健気な彼女を見ていると「あの時あれほど勇み足をしなくても良かったのではないか？」こんな言葉がスーッと胸を通り過ぎるのです。焦らず長い時間を費やし、くり返し噛み含めるように教えれば、十分理解したのではなかったか？皆様に「叱る」という行為がどのように愛犬に理解されているか、今一度考えて見てはいかがでしょうか？

そんなことから、ラブラドールの「騾」や「訓練」は、おにぎりをギユツと結ぶようにないほうが向いていると思います。

私は、彼女が教えたことをちゃんと行なった時、傍の目を仰らず心の底からほめまくりです。母は「とうとう頭にきたか」と思ったようですが、とにかく私の気持ちを伝えるにはこれしかないと思ったのです。

「ブタも帰りヤ木に上る」と言う語事がありますが、まさにそのとうり！一度このほめられる快感を覚えれば、もう大変！

(私の方が) 疲れるまでやりまくりです。「騾」「訓練」をする際には、この「トイレのミロワット」(無駄な明るさ)といったラブラドールの性格を上手に利用することだと思えます。

私は自分の犬のほかはよく分かりませんが、彼女の訓練(といっても高度なものではありません)も二人で楽しみながら行なっていますので、いい加減な所も多々あります。ですが、飼い主のほうが訓練を入れる際は、一犬一犬の性格を良く見極め、ラブラドールの天性を考えながら行えば、割合にスムーズだと思えます。

たとえば「運搬」。「レトリバー」の名のとおり、ラブラ

ドールは物を銜えることが大好きです。生長期にはよくものを銜え、振り回して遊んでいると思いますが、この楽しんでいるときがよいチャンスだと思えます。私の場合、その遊びに混ぜてもらい、彼女がちょうど物を銜えたときに「銜え」と言ってもらえ、遊んでいるものを素早く横取りして遠くへ投げ、取りに行こうとする彼女を捕まえ「待て、待て」と言い、必ずときに「GO！」と声をかけます。一緒に走って行って、銜えたところでまたほめまくりです。銜えたものを離さないときは、他のものに興味を反らし、離したとき心の底から「離せ、グート！」。どうしても離さないときは、耳にフーツと息をかけるをたいいてい離してくれませう。

「脚側行進」要するに引っ張らないで歩くことが分かればよいのだと思いますが、元気の良い子にはなかなか難しいと思います。これも、焦らず徐々に教えたほうが良いでしょう。このタイミングは、お散歩の帰りがいいと思います。

思いつき遊び遊びした後、なんとなく横を歩いているときか

ありませんか？この時、御自分の脚のあたりを覗きながら「ヒール（付け）グールド！」。これを繰り返して、ワンチャンが何となく分かってきたなと思ったら、家を出るときリードを短く持ち、足に付け、まず「グールド！」。少しリードを強めてワンチャンが前に出ようとしたときに首にショックを与えて「ノー！」。この時、すぐにはおとなしくならないでしょうが、飼い主は「忍」の一言。

私の愛犬ラムは、ボールが食事の次に好きで、散歩のときにボールを見せると目の色が変わってしまいます。これを利用して、前に出ようとするときとワンチャンの頭の上のあたりに出し、上を見てちょうど脚に来たとき、「付け、グールド！」とほめたところ、驚くほど上手にできました。散歩中ずっと人參でつられた馬のようではかわいそうですので、私は公園など離れて遊んでいるとき（ノーリードで自由な状態）にゲームをして、そのような格好で教えています。

「ウェイト（待て）」これは一ヶ所に動かずに待たせるときに使っています。なんでもやりたがりのラブラドルにとつて

少しつらいことのようにですが、我慢をする訓練にもなり、リードをつなぐ所がないときにも役立ちます。初めはリードの届く距離からならし、できるようなったら近くにボールを投げたりしてもけして動かないように躡りました。

「カム（来い）」。お家ではすぐ手元に来る子でも、野外でリードを外すと呼んでも来ないことがあります。小さいころからノーリードに慣れている子は、比較的すぐに来るようです。家から脱走して帰ってきた子をいきなり叱ったことはいりません。しょうか？せっかく優しい御主人の顔を思い帰ってきたワンチャンは、深くショックを受け、信頼関係に不審を抱くことでしょう。まず、帰ってきたことをほめてあげてください。その後、一人で外に出てはいけないことを教えてあげます。できれば外に出ようとする瞬間に叱ったほうが効果的だと思います。

野外で名前を呼ぶとき、大抵その後リードを付けることが多いです。自由を楽しんでいるワンチャンには、あまり嬉しくないことでしょう。これも子犬の時から習慣付けることが大切だと思いますが、私は呼んで手元に来たら、とにかくほめて

あげ、しばらく手元で遊んでからリードに付けておりました。

脱走したときも、すぐに家にいれるのではなく、私も外に出て呼び寄せてから少し遊び、その後、一緒に家にはいる。こうしたところ、すぐに戻ってくるようになりました。

「無駄ほえ」や嬉しさのあまり騒ぎ過ぎる「興奮性」のよう  
に持って生まれた本能的なものは、訓練士の方も手を焼いておられるようです。

私が以前飼っていた（雑種の）親子がりましたが、子供の方は神経が細く、親犬が何かに激しくほえ立てると、親犬の口許に「ガルルツミ！」と噛みついていき、ほえるのをやめさせるのです。そんなことを思い出し、あまりの興奮に手を焼いたとき、犬が威嚇をするような声にならない音を出して、私も思いつきり歯型がつくほど唇に噛みついたところ、「キューキュー」と音を立てて静かになりました。よほどこたえたのか、夜中にはえた時に今度は軽く噛んでみたところ、パツチリ静かになりました。

これも自分の愛犬だからこそできるのだと思いますが、最近

は可愛そうなのであまり「噛みついて」いません。

一般的な寝の他に、ドッグショーの為の「ショーマナー」があります。最近テレビでも放映され、御存じかと思えます。ショーのメイン・イベントともなると、あまりに美しく特殊なことのようですが、たまに愛犬と共に刺激を受けるのも「オツなものだな」と思います。

専門的にショーを楽しみ出展を重ねたワンチャン達は、フアッシュョンモデル宛らにリングを飾っております。プロのハンドラーにハンドリングを委ね、御愛犬の美しい姿を楽しむのもよいと思えますが、私は自分でリードを引いています。愛犬と一緒にリングを走ったり、ポーズをとったりしていると、運動会のような気分で「参加することに意義がある」と快感を覚えております。

「マナー」とはどのような物か？というと、とにかく美しくリングを走り、美しいポーズで立ち、遅やかにボディチェックが受けられれば、どなたでもショーを楽しむことができます。思います。また、会場には普段目にはできない珍しい犬種や、子

犬から成犬まで色々なワンチャン達に目を見張ります。愛犬を出覧させずにただ見ているとき、私はフツと寂しさを感じたりします。

私たち、東京南ラブラドル・レトリバーハイクラブも五周年を記念し、イベントを企画しているようですので、あまり興味のおありでない方も、この機会に試してご覧になっては？とチャッカリ御協力を御ぎ、お話しを締めたいと思います。

拙い文章がお役に立つかどうか分かりませんが、とにかくこんなにも優しく健気なラブラドル・レトリバーハイの躰や訓練には、根気強さと心からの「グート、クートッ」は欠かせないと実感しております。

愛するこのラブはハートでカットすればするほど輝く「無邪気なダイヤモンド」。そんな犬ではないでしょうか？

